

# VMware vRealize Automation 6.2.3 リリース ノート

最終更新日 2015年10月06日

vRealize Automation 6.2.3 | 2015 年 10 月 6 日 | ビルド 3093004

VMware Identity Appliance 6.2.3 | 2015 年 10 月 6 日 | ビルド 3011559

vRealize Automation Application Services 6.2.0 | 2014 年 12 月 9 日 | ビルド 2299597

vRealize Automation Application Services 6.2.0 | 2014 年 12 月 9 日 | ビルド 2299597

更新日: 2015 年 10 月 6 日

リリース ノートを定期的に確認して、最新の追加情報や更新情報を入手してください。

## リリース ノートの概要

本リリース ノートでは、次のトピックについて説明します。

- [新機能](#)
- [システム要件、インストール、およびアップグレード](#)
- [ドキュメント](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)
- [廃止された機能とサポート](#)

## 新機能

vRealize Automation のこのリリースでは、数々の問題が解決されているほか（「[解決した問題](#)」セクションを参照）、次のように機能が拡張されています。

- vCloud vApp への [予約の変更] 操作のサポートが追加され、管理者がプロビジョニング済み vApp のビジネス グループを変更できるようになりました。
- スナップショットがブループリントで有効になっていない場合に、すべてのユーザー（ビジネス グループ マネージャおよびサポート ユーザーを含む）に対してスナップショット オプションを無効にする機能が追加されました。

- vCloud Government Service および Amazon Web Services GovCloud のサポートが追加されました。
- 以下のエンドポイント バージョンのサポートを更新しました。
  - OpenStack Juno
  - vCloud Director 5.5.3
  - vRealize Orchestrator 6.0.3
  - vSphere 5.5 Update 3
  - vSphere 6.0 Update 1
- Microsoft SQL Server 2012 SP2 のサポートが追加されました。
- Windows バージョンのゲスト エージェントのエラー ログ機能が改善されました。
- VMware カスタマ エクスペリエンス改善プログラムへの変更が行われました。

カスタマ エクスペリエンス改善プログラム (CEIP) は、オプトイン型からオプトアウト型に変更され、デフォルトで有効になりました。バージョン 6.2.3 にアップグレードすると、自動的に CEIP に登録されます。プログラムについての詳細は、『[vRealize Automation システム管理](#)』を参照してください。「vRealize Automation のカスタマ エクスペリエンス改善プログラムの有効化または無効化」に記載されているように、このプログラムは、管理コンソールの [テレメトリ] タブで無効にすることができます。

vRealize Orchestrator プラグインの新機能については、『[vCloud Automation Center 6.2 用の VMware vCenter Orchestrator プラグイン リリース ノート](#)』を参照してください。

このリリースで、vRealize Automation 6.2.3 (ビルド 3025163) よりも前のリリースが置き換えられます。vRealize Automation 6.2.3 (ビルド 3025163) 以降で解決された問題に関する情報については、[ナレッジ ベース 2131866](#)、[ナレッジ ベース 2131870](#)、[ナレッジ ベース 2131869](#) を参照してください。

## システム要件、インストール、およびアップグレード

サポート対象のホスト オペレーティング システム、データベース、および Web サーバについては、[vRealize Automation のサポート マトリックス](#) (英語) を参照してください。

その他の前提条件およびインストール手順については、VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント センターの「[vRealize Automation Installation and Configuration](#)」を参照してください。

バージョン 6.2.3 にアップグレードするには、「[vRealize Automation 6.2 以降へのアップグレード](#)」を参照してください。

vRealize Automation 6.2.3 (ビルド 3025163) よりも前のリリースからのアップグレードについては、[ナレッジ ベース 2133793](#) を参照してください。

## ドキュメント

vRealize Automation のドキュメント セットには、バージョン 6.2.3 で導入されたすべての新しい機能をサポートする更新情報が含まれています。

vRealize Automation 6.2.3 のすべてのドキュメントにアクセスするには、「[VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント](#)」に移動します。

## ドキュメントに関する既知の問題

- **Advanced Service Design**

単一のアカウントを使用して外部 vRealize Orchestrator サーバへの接続を構成する場合、アカウントは vRealize Orchestrator の vadmins グループのメンバー、または表示および実行権限を持つグループのメンバーである必要があります。

## 解決した問題

解決した問題には、次のトピックが含まれます。

- [インストールとアップグレード](#)
- [構成とプロビジョニング](#)

### インストールとアップグレード

- **VMware vRealize Automation 6.2.x IaaS のインストールまたはアップグレードを実行すると次のエラーが表示されて失敗する: exited with code -1**

この問題は、IaaS 仮想マシンに Java Runtime Environment (JRE) 1.8 がインストールされているために発生します。

**回避策:** Java Runtime Environment (JRE) 1.8 をアンインストールし、JRE 1.7 をインストールします。[ナレッジベース 2101591](#) を参照してください。

この問題は解決しました。

### 構成とプロビジョニング

- **再構成中にハード ディスクが予期せずに削除される。**

再構成操作中のハード ディスクに関する以下の問題は解決されました。

- RDM ディスクを含む仮想マシンを再構成すると、ハード ディスクが削除される。
- 複数のブラウザ タブで再構成の操作を実行すると、ハード ディスクおよび NIC が予期せずに削除される。

[ナレッジベース 2124657](#) および [ナレッジベース 2124198](#) を参照してください。

この問題は解決しました。

# 既知の問題

既知の問題には次のトピックが含まれます。

- [インストールとアップグレード](#)
- [移行](#)
- [国際化](#)
- [ネットワーク](#)
- [Application Services](#)
- [Advanced Service Designer](#)
- [構成とプロビジョニング](#)

既知の問題で以前記載されていなかったものには、\* 記号が付加されています。

## インストールとアップグレード

- **vRealize Automation のアップグレード時に、Advanced Service Designer を開くことができず、エラー メッセージが表示される\***

vRealize Automation のアップグレード時に、依存関係の解決に失敗したという内容のエラーメッセージが表示されます。詳細については、[ナレッジベース 2122397](#) を参照してください。

- **vRealize Automation をアップグレードするときに DBUpgrade スクリプトが失敗する\***  
データベース名にスペースが含まれているとアップグレード スクリプトが失敗します。

**回避策：**この問題が発生したときには、VMware カスタマー サポートにお問い合わせください。

- **.Net 4.5.2 によって vRealize Automation IaaS のインストールが失敗する**

.NET 4.5.1 を 4.5.2 にアップグレードすると、次のエラー メッセージが表示される場合があります：  
Files (x86)\VMware\VCAC\Server\Model Manager Data\DynamicOps.ManagementModel.dll" -s "sql\_server.your\_company\_name.com" -d "VCAC" -c "C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC\Server\Model Manager Data\ManagementModelSecurityConfig.xml" -v.

**回避策：**.NET 4.5.2 にアップグレードするために、Microsoft 社が提供するインストール手順に従って、最新の Windows アップデートをインストールし、システムを再起動します。

- **/etc/hosts ファイルに加えた変更が特定の条件下で上書きされる場合がある**

/etc/hosts ファイルを変更した後に、次のいずれかのアクションを実行すると変更が上書きされる場合があります。

- 再起動
- ネットワーク変更
- 管理コンソールの [ネットワーク] タブでの変更

- 。アップグレード

**回避策:** /etc/hosts ファイルに永続的な変更を加えるには、VAMI\_EDIT\_BEGIN から VAMI\_EDIT\_END までのセクション以外にその変更を加える必要があります。これは、ネットワーク変更が検出された場合にこのセクションが上書きされるためです。

- **IP アドレスの変更またはホスト ファイルへの追加が、アプライアンスの再起動後に保持されない**

詳細については、[ナレッジベース 2112582](#) を参照してください。

- **vRealize Automation のログイン ページに、[ユーザー名] フィールドと [パスワード] フィールドが表示されない**

この問題は、VMware クライアント統合プラグインと Firefox に互換性がないために、Firefox ブラウザの最近のバージョンでのみ発生します。

**回避策:** 詳細については、[ナレッジベース 2102075](#) を参照してください。

- **vCenter PSC (Platform Services Controller) バージョン 6.0 にアップグレードした後で、vRealize Automation にログインするとエラーが発生する**

vCenter PSC (Platform Services Controller) バージョン 6.0 にアップグレードした後で、vRealize Automation にログインする際に、「VMware Client Integration Plugin のエラーにより Windows セッション認証ログインが失敗しました」という内容のエラー メッセージが表示されます。

「vmware\_csd プロセスを実行するアプリケーションがありません」というメッセージのダイアログ ボックスが表示されることもあります。ログインするには、クライアント統合バージョン 6.0 が必要です。

**回避策:** <http://vsphereclient.vmware.com/vsphereclient/VMware-ClientIntegrationPlugin-6.0.0.exe> から Client Integration Plugin をダウンロードし、vRealize Automation に再度ログインします。

- **vSphere 6.0 で導入された vCenter Platform Services Controller (PSC) バージョン 6.0 により vsphere.local 以外のテナント名を指定できる**

vRealize Automation を構成する際、仮想アプライアンスの [SSO] タブにテナント名を入力できないため、vRealize Automation には、デフォルトのテナント名として vsphere.local が必要です。

**回避策:** vSphere 6.0 では、テナント名を vsphere.local から変更しないでください。

- **vCenter Server をバージョン 5.5 U2 から 6.0 にアップグレードすると、vSphere Web Client ログイン画面に VMware vCenter Single Sign-On の代わりに VMware vCloud Automation Center が表示される**

vCenter Server が Platform Services Controller (PSC) によって構成され、vRealize Automation も構成されている場合にアップグレードを実行すると、vSphere Web Client のログイン画面に、

VMware vCenter Single Sign-On ではなく VMware vCloud Automation Center が誤って表示されます。これは、vRealize Automation で、**[ブランディングの適用]** オプションが選択されていない場合にも発生します。

- **vCenter SSO 5.5 から PSC (Platform Services Controller) 6.0 にアップグレードすると、vCenter SSO 5.5 で vRealize Automation に作成されたテナントを編集できなくなる (Windows ベースの SSO のみ)**

vCenter SSO 5.5 に接続中にテナントを作成し、PSC 6.0 にアップグレードした後でそのテナントを編集しようとすると、編集処理は失敗し、次のエラー メッセージが表示されます：システム例外。詳細については、[ナレッジベース 2109719](#) を参照してください。

- **PSC 6.0 にアップグレードした後にデフォルトのテナント URL ([https://FQDN\\_VA/vcac](https://FQDN_VA/vcac)) にアクセスすると、vRealize Virtual Appliance の SSO 登録でポート 7444 が有効でなくなったために 400 Request エラーが発生する**

仮想アプライアンスをアップグレードされた Platform Services Controller 6.0 に再登録しようとする、仮想アプライアンスに、「ホスト vra-va-hostname.domain.name およびポート 7444 でリモート SSO にアクセスしようとしています、返されるホストは vra-va-hostname.domain.name およびポート 443 です」という内容のエラー メッセージが表示されます。

**回避策:** 次の手順を実行してください。

1. 完全修飾ドメイン名、<https://vra-va-hostname.domain.name:5480> を使用して、vRealize Automation アプライアンス管理コンソールに移動します。
2. ユーザー名 root と、アプライアンスをデプロイしたときに指定したパスワードを使用してログインします。
3. **[vRA の設定]** タブをクリックします。
4. **[SSO]** をクリックします。
5. SSO サーバの設定を入力します。これらの設定は、SSO アプライアンスを構成する際に入力した設定と一致する必要があります。
  - a. **[SSO ホスト]** テキスト ボックスに sso-va-hostname.domain.name の形式を使用して SSO アプライアンスの完全修飾ドメイン名を入力します。プリフィックス <https://> は使用しないでください。たとえば、**vra-sso-mycompany.com** のように入力します。
  - b. **[SSO ホスト]** テキスト ボックスには、デフォルトのポート番号 7444 が表示されています。この値を 443 に変更します。
  - c. デフォルトのテナント名 vsphere.local は変更しないでください。
  - d. **[SSO 管理者ユーザー]** テキスト ボックスに、デフォルトの管理者名 administrator@vsphere.local を入力します。
  - e. **[SSO 管理者パスワード]** テキスト ボックスに、SSO 管理者パスワードを入力します。
  - f. **[ブランディングの適用]** を選択します。



g. **[設定の保存]** をクリックします。

h. **[OK]** をクリックします。

数分後、成功のメッセージが表示され、[SSO ステータス] が **[接続中]** に更新されます。

i. **[サービス]** タブに移動し、すべての仮想アプライアンス サービスが実行されてから製品に再度ログインしてください。

- **vRealize Automation と SSO 5.x を vCenter PSC 6.0 にアップグレードした後に、テナントにアクセスできず、内部エラーが表示される (Linux のみ)**

**回避策:** 詳細については、[ナレッジベース 2112030](#) を参照してください。

- **vSphere ブループリント用にリモート コンソールへの接続操作を復活させる**

6.2.2 では、vSphere によってプロビジョニングされるアプライアンスのリモート コンソールがサポートされます。6.2 から 6.2.2 にアップグレードした場合は、[アクション] タブの [リモート コンソールを使用して接続] が有効になるように既存のブループリントを変更する必要があります。詳細については、[ナレッジベース 2109706](#) を参照してください。

- **Identity Appliance 管理コンソールのスプリット DNS 構成で警告が表示される**

スプリット DNS 構成で、Active Directory ドメインに参加することを選択している場合、Identity Appliance 管理コンソールに警告が表示されます。この警告メッセージは無視してかまいません。

**回避策:** `domainjoin-cli --disable hostname command` を実行して、コマンドラインから手動でドメインに参加します。この構文は、vCenter アプライアンスによって同じ `domainjoin-cli` に使用されます。

- **IaaS カスタム インストール オプションを使用した Manager Service コンポーネントのインストールに失敗する**

データベース、Web サイトおよび Model Manager Data コンポーネントがすでにインストールされているマシンに Manager Service コンポーネントをインストールすることはできません。Manager Service コンポーネントをインストールしようとする **と失敗し**、「仮想アプリケーション `vcac` は存在します」という内容のエラーメッセージが表示されます。

- **ノードと管理コンソール間のネットワーク接続が遅いためにログが最終バンドルに含まれない**

タイムアウトを超過すると、ログがアップロードされず、最終バンドルに含まれません。現在は、ノードでコマンドの実行が開始されてから 30 分後にタイムアウトするように固定されています。この問題は、ノードと管理コンソール間のネットワーク接続が遅い場合に発生する可能性があります。

- **デフォルト以外の SQL ポートを使用すると前提条件チェッカーで設定が検出されない**  
カスタム インストールを実行し、デフォルト以外のインスタンスとポートを使用して、SQL のデータベース ノードを選択すると、Microsoft 分散トランザクション コーディネータ (MSDTC) が正しく構成されていて、MSDTC サービスが実行されていても、前提条件チェッカーで設定が検出されません。

**回避策:** MSDTC が実行されていることを手動で検証し、前提条件チェッカーで **[バイパス]** をクリックしてインストールを続行します。

- **6.1 から 6.2 にアップグレードすると、Identity 仮想アプライアンスのログイン ページに VMware vCloud Automation Center が表示される**

VMware vCloud Automation Center を 6.1.x から vRealize Automation 6.2 にアップグレードすると、Identity 仮想アプライアンスのログイン ページに VMware vRealize Automation ではなく、VMware vCloud Automation Center がブランド名として表示されます。

**回避策:** 管理コンソールの **[SSO]** タブに移動し、**[設定の保存]** を選択して、Identity 仮想アプライアンスに再登録します。新しいブランド名が表示されます。

- **停止したマシンでアーカイブ ログが見つからない**

一部のマシンでアーカイブ ログが見つからない場合、マシンが停止状態かアクセス不能な状態です。

- **インストール ウィザードを使用して vRealize Automation データベースをカスタム ディレクトリにインストールすることができない**

分散 (カスタム) インストールで、インストーラはデフォルト データベースとログ ディレクトリに対する変更を無視します。データベースとログは、デフォルトのディレクトリに作成されます。

**回避策:** データベースをデフォルト以外の場所にインストールするには、vRealize Automation をインストールする前に DBinstall スクリプトを使用してデータベースをインストールします。

- **共通名に大文字が含まれていると、Single Sign-On 証明書の検証に失敗する**

Single Sign-On アプライアンスに証明書を割り当てると、すべての文字列が小文字に変換されます。検証プロセスでは大文字と小文字が区別されるため、プロセスが失敗します。証明書名に大文字が含まれていても、検証プロセスで検索されるのはすべて小文字の名前であるためです。

**回避策:** **[vRealize Automation Appliance] > [vRA 設定] > [SSO]** で SSO ホスト アドレスを指定する際、SSO アプライアンスへ証明書を割り当てる場合と同様に、大文字小文字を区別してアドレスを入力します。



- **不正なホスト名が指定されると、インストールに失敗する**

次のようなエラーが表示され、インストールに失敗します。

情報: 2014-06-17 10 42 32 059 AM : System.AggregateException: One or more errors occurred.--> System.Net.Http.HttpRequestException: An error occurred while sending the request.----> System.Net.WebException: The remote name could not be resolved: 'po-va-rtq8c.sqa.local'Cause: 原因: [vCAC 設定] > [ホストの設定] の [VCAC HostName] フィールドに不正な名前が入力されると、問題が発生します。

### 回避策:

1. 仮想アプライアンス構成ファイル /etc/sysconfig/network/dhcp を編集して適切なホスト名を含めます。
2. 仮想アプライアンスを再起動します。
3. 仮想アプライアンス管理コンソールにログインします。
4. [vRA 設定] タブを開き、[ホストの設定] をクリックします。
5. [ホスト名] テキスト ボックスに正しい名前を入力します。
6. [設定の保存] をクリックします。

注: [ホスト名の解決] をクリックしないでください。

7. 仮想アプライアンスの構成を完了し、インストールを続行します。

## 移行

- **vApp コンポーネントの削除日が、vRealize Automation 5.2.x バージョンから移行した vApp の vApp コンテナのものと異なる**

vRealize Automation 5.2x バージョンから移行した vApp に、コンポーネントとコンテナ間で一致しない削除日が表示されます。コンポーネントには有効期限と同じ日が削除日として表示されますが、コンテナには正しい情報が表示されます。vRealize Automation ではコンテナ情報を基に vApp リースが管理されるため、コンポーネントが有効期限日より前に削除されることはありません。

- **移行後、[イベントのカレンダー] ポートレットに正しい作成日が表示されない**

移行後、[イベントのカレンダー] ポートレットで、移行したすべてのアイテムの移行日が作成日として表示されます。この問題は、実際の日付または正しい日付に関わらず発生します。

## 国際化

- **[アイテム] タブの仮想マシン名に ASCII 以外の文字が使用されていると、スナップショットを作成できない**

[アイテム] タブの仮想マシン名に ASCII 以外の文字が使用されていると、仮想マシンのスナップショットを作成できません。

**回避策:** 仮想マシンの名前を変更し、英文字を使用してスナップショットを作成します。

- **Unicode 文字を含むゲスト エージェント カスタム スクリプトが、無限ループのままとなる**  
スクリプト名に Unicode 文字を含むゲスト エージェントがあるカスタム スクリプトを使用する場合、仮想マシンはプロビジョニングされず、リクエストは無限ループのままとなります。

**回避策：**スクリプト名に Unicode 文字を使用しないでください。

## ネットワーク

- **複数の VDR ルーティング ネットワークでロード バランシングが有効になっている場合、同じ NSX Edge が使用される**

マルチマシン ブループリントにおいて複数の VDR ルーティング ネットワークでロード バランシングが有効になっている場合に、1 つの NSX Edge が Edge のアップリンク側の両方のネットワークに接続されます。この状況では、1 台以上のロード バランサ仮想サーバがアクセス不能になることがあります。

- **vCenter Server でネットワークを再構成した後に、vRealize Automation の仮想マルチマシン コンポーネントに対する誤ったネットワーク設定が表示される**

vRealize Automation で仮想マルチマシン コンポーネントの vCloud Networking and Security (NSX) ネットワークを再構成することはできません。代わりに、vSphere Client を使用して vCenter Server のネットワークを再構成する必要があります。仮想マルチマシン コンポーネントの一部のネットワーク設定が vRealize Automation に正しく表示されなくなることに注意してください。

**回避策：**vCenter Server でネットワークを更新し、適切なネットワーク設定をリストアします。

- **VMware NSX タスクによるマルチマシンのブループリントの同時デプロイが進行中の状態のままになる**

**回避策：**この既知の問題を解決するには、[KB 2128908](#) を参照してください。

## Application Services

- **SSO ユーザーが Application Services にログインできない**

vRealize Automation が起動されて実行される前に Application Services が再起動されると、SSO ユーザーは、Application Services にログインできません。

**回避策：**Application Services を起動または再起動する前に、vRealize Automation が実行されていることを確認します。

- **グローバル プロキシ設定を構成したかどうかにかかわらず、展開環境のプロキシ設定が使用されない**

darwin\_global.conf ファイルでプロキシ設定をグローバル構成しているかどうかにかかわら

ず、展開環境レベルでプロキシ設定を構成しても、そのプロキシ設定が展開時に適用されません。

- **vRealize Automation 6.2 バージョンを使用して Application Director から vRealize Automation のカタログにブループリントを公開することができない**

vRealize Automation を 6.0.1.x または 6.1 から 6.2 にアップグレードし、vRealize Automation カタログにブループリントを公開しようとする、と、「予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。」という内容のエラーメッセージが表示されます。この問題は、vRealize Automation 6.2 バージョンに新規登録された Application Director のインスタンスでは発生しません。

**回避策：** Application Director 6.0.1.x または 6.1 を vRealize Automation 6.2 から登録解除して、もう一度 Application Director を vRealize Automation に登録します。

- **テナント間の物理サービスおよび Application Services を削除すると、ファブリック管理者のアクセスが拒否される**

テナント間の物理サービスおよび Application Services を削除すると、ファブリック管理者はアクセス拒否メッセージを受け取ります。

**回避策：** マシンが存在するテナントのファブリック グループのファブリック管理者としてログインします。

- **Application Service で、ブループリント キャンバス内のディスクに説明を追加できない**

Windows Internet Explorer 11 を使用する場合、ブループリント キャンバスの [ディスク] タブで、ディスクに説明を追加できません。

**回避策：** ブループリント キャンバス内のディスクに説明を追加するには、Chrome または Firefox を使用する必要があります。

- **Application Director 6.0.1.x または 6.1 で展開された Puppet サービスを使用したノードを更新できない**

Application Services 6.2 では、Application Director 6.0.1.x または 6.1 で展開された Puppet サービスを使用するノードの更新をサポートしていません。Application Services 6.2 では、特定のサービスを更新できる Puppet ノード マニフェストを作成します。Application Director 6.0.1.x または 6.1 で生成されたノード マニフェスト ファイルと互換性がありません。

**回避策：** [ナレッジ ベース 2088837](#) を参照してください。

## Advanced Service Designer

- **接続のテスト時に、エラー「Orchestrator サーバに接続できません。」が表示される**

vRealize Automation 管理コンソールへのログイン中に接続をテストし、エラー「Orchestrator サーバに接続できません。」が表示されると、vRealize Orchestrator エンドポイントが登録されません。この問題は不規則に発生します。

**回避策：**この問題を解決するには、Orchestrator サービスを再登録する必要があります。

1. vRealize Appliance Linux コンソールに root としてログインします。
2. 「`vcac-vami vco-service-reconfigure`」と入力し、**Enter** キーを押します。
3. ログアウトして、vRealize Orchestrator の接続をテストします。

- **vRealize Orchestrator プレゼンテーションのバインド後に Advanced Service Designer のフィールド値の制約が評価されない**

申請フォームを設計する際に、フィールドの制約にフォームの別のフィールドへのバインドが使用されており、その別のフィールドの値が vRealize Orchestrator プレゼンテーションで定義されたバインド式に基づいて計算されていると、制約が正しく適用されません。フィールド間のバインドは、vRealize Orchestrator プレゼンテーションまたは Advanced Service Designer フォームのいずれかで定義されている必要があります。

- **誤ったフィールド チェックが Advanced Service Designer で発生する場合がある**

作成モードでエンドポイント タイプを変更すると、誤ったフィールド チェックが発生することがあります。

**回避策：**次の手順を実行してください。

1. エンドポイント作成ウィザードが開いている場合は、これを閉じます。
2. 新しいエンドポイント作成ウィザードを開始します。
3. ウィザードの最初のページで正しいプラグインのタイプを選択します。
4. [フォーム プレゼンテーション] タブで、必要なデータを入力します。
5. 構成を保存します。

適正なフォームのコンディショナル制約が実行されます。

- **null を返す可能性のある定義済み回答アクションが string 配列型に入力されたワークフローを選択すると、Advanced Service Designer でサービス ブループリントまたはリソース アクションを作成できない**

Advanced Service Designer でサービス ブループリントまたはリソース アクションを作成しているときに、vRealize Orchestrator ワークフローを選択し、そのワークフローのプレゼンテーション内で、null を返す可能性のあるスクリプト アクションを呼び出す定義済み回答プロパティの入力パラメータが string 配列型に指定されている場合、[次へ] をクリックするとプロシージャが失敗して、次のエラー メッセージが表示されます。内部エラー。内部エラーが発生しました。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。その際、次の参照番号を使用してください：

**回避策：**vRealize Orchestrator クライアントの [デザイン] パースペクティブで、null を空の配列に置き換えて、定義済みの回答を編集します。たとえば、次のアクション スクリプト コードがあるとします。

```
if (someCondition) {
```

```
return ["a", "b", "c"];
} else {
return null;
}
```

コードを次のように変更する必要があります。

```
if (someCondition) {
return ["a", "b", "c"];
} else {
return [];
}
```

## 構成とプロビジョニング

- **クローン、基本仮想マシン、リンク クローン仮想マシンのいずれかをプロビジョニングする際、サービス カタログからの申請が失敗する**

vCenter Server を 6.0 から 6.0U1 にアップグレードし、vRealize Automation を 6.2.0 から 6.2.2 にアップグレードした後、プロビジョニングが失敗し、次のエラー メッセージが表示されます。「申請が失敗しました：マシン：CloneVM：オブジェクト参照がオブジェクトのインスタンスに設定されていません。」エラーの原因についての適切な情報は提供されません。

**回避策：**IaaS マシンの該当の vCenter Server に割り当てられていた vSphere エージェントを再インストールし、データの収集を開始します。

- **[ビジネス グループの編集] ページでユーザー名の一部を使用してユーザーを検索できない**  
[ビジネス グループの編集] ページのグループ マネージャ ロール、サポート ロール、またはユーザー ロールの各フィールドで名前的一部分を使用して検索すると、次のエラーが表示されます。「検索中にエラーが発生しました：（エラー メッセージはありません）」このエラーは、デフォルトのテナントがネイティブの AD で構成されている場合に、そのテナントでのみ発生します。

**回避策：**ユーザーを検索する際は、完全修飾ドメイン名を入力します。

- **大きなマルチマシンのブループリントからマシンをプロビジョニングする場合にマルチマシンの仮想マシン名が長すぎると、エラー メッセージが表示される**

マルチマシンのブループリントからマシンをプロビジョニングする場合、必要なマシン名の一覧で許容される文字の合計数は 503 文字です。このイベントに対して、監査ログに次のエラー メッセージが作成されます（[インフラストラクチャ] > [監視] > [監査ログ]）。ただし、エラーはマルチマシンのプロビジョニング プロセスには影響しません。[エラー]：  
System.Data.UpdateException: エントリの更新中にエラーが発生しました。詳細については、内部例外を参照してください。---> System.Data.SqlClient.SqlException: 文字列またはバイナリ データが切り詰められます。

**回避策：**エラーを回避するには、マルチマシンのブループリントのブループリントの数を減らすか、または関連付けられているマシン名を短くします。

- **vSphere の予約で NetApp FlexClone ストレージの検証がサポートされない**

予約サービス API を使用して予約を作成すると、その予約に割り当てられているすべてのストレージが FlexClone をサポートしている場合でも、NetApp FlexClone は有効になりません。

**回避策：**ユーザー インターフェイスを使用して予約を作成します。

- **Active Directory から削除されたユーザーが vRealize Automation のいくつかの領域に残る**

Active Directory からユーザーを削除すると、そのユーザーは [資格] タブの [資格] リストおよび [承認ポリシー] リストに残ります。申請にこのユーザーの承認が必要である場合は、次のエラーで承認が失敗します。Status Details The Request approval has returned with an error.

**回避策：**Active Directory にユーザーを戻すか、または承認ポリシーを削除して再作成し、このユーザーへのすべての参照を削除します。

- **再構成の承認リクエストのコストが正しく表示されない**

既存のマシンのコンピュート リソースのコストを変更して、より多くのメモリ、CPU、およびストレージで再構成しても、再構成の承認申請のコストが正しく表示されません。その代わりに、古い値が表示されます。

- **[メトリック プロバイダの構成] タブにエラーが表示される**

vRealize Automation メトリック プロバイダが最初から選択されている [メトリック プロバイダの構成] タブに移動し、[vRealize Operations のエンドポイント] オプションを選択し、vRealize Automation メトリック プロバイダを選択し直し、[保存] をクリックすると、「強調表示されているエラーを修正してください」という内容のエラー メッセージが表示されます。

**回避策：**ブラウザを更新するか、vRealize Automation ユーザー インターフェイスからログアウトし、ログインし直します。

- **カスタマイズ中のエラーが原因で、vApp がプロビジョニングに失敗する場合がある**

vApp テンプレートの仮想マシンのハードウェア設定を変更してからテンプレートを更新すると、エンドポイント データ収集を実行しない限り、仮想マシンをプロビジョニングすることができなくなります。

- **ユーザーに新しいロールが付与された後、タブが更新されない**

ユーザーに新しいロールを付与した後、ログアウトしてから再度ログインし直しても、そのロールの特定のタブが少なくとも 5 分から 10 分の間表示されないことがあります。

- **以前追加したポートレットが [ホーム] タブで完全にレンダリングされない場合がある**

Internet Explorer 8 または 9 を使用して vRealize Automation にログインし、[ホーム] タブで追加のポートレットを追加すると、vRealize Automation にすでに表示されている以前のポートレットが完全にはレンダリングされないことがあります。

**回避策：**ブラウザを更新します。

- **新しいオペレーティング システムのバージョンを使用して事前定義済みの Puppet ベースの Test App 1.0.0 または Puppet ベースの Test App 1.0.1 を展開するとエラーが発生する**  
事前定義済みの Puppet ベースの Test App 1.0.0 または Puppet ベースの Test App 1.0.1 のブループリントで新しいオペレーティング システムのバージョンを作成および使用し、アプリケーションを展開する場合、「予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。」という内容のエラーメッセージが表示され、展開に失敗します。

**回避策：**新しいオペレーティング システムのバージョンではなく、ブループリントで事前定義済みのオペレーティング システムのバージョンを再使用します。

- **プロビジョニングされたマシンのアクションが終了する前に完了のマークが付けられる**  
[再プロビジョニング]、[パワーオフ] などのアクションは、操作が処理中であっても [申請] ページに [完了] と表示されることがあります。マシンの実際のステータスは、[アイテム] ページに反映されます。
- **ゲスト エージェント ファイル SCCMPackageDefinitionFile.sms を更新する必要がある**  
ゲスト エージェント ファイル SCCMPackageDefinitionFile.sms には、古い名前と公開者情報があります。これは、動作には影響しません。
- **リース日を [承認ポリシー] 値の範囲外に変更できる**  
**リースの変更** リソース アクションを使用すると、リース日をブループリントで指定されている最大リース範囲以降の日付に変更できます。
- **削除したカスタム グループが資格から削除されない**  
資格にリンクされているカスタム グループが削除された場合、カスタム グループは資格から削除されません。

**回避策：**カスタム グループを削除して、資格から削除するには、次の手順を実行します。

1. 資格からカスタム グループを削除します。
2. カスタム グループを削除します。

- **ビジネス グループ ロールをカスタム グループから削除しても、資格を破棄できない**  
資格にリンクされたカスタム グループをビジネス グループ ロールから削除した場合、カスタム グループは資格から削除されません。

**回避策：**ビジネス グループ ロールをカスタム グループから削除して、資格から削除するには、次の手順を実行します。

1. 資格からカスタム グループを削除します。
2. ビジネス グループ ロールからカスタム グループを削除します。



- **Hyper-V マシンがインフラストラクチャ オーガナイザで誤って管理対象外のマシンとして表示される**

Hyper-V マシンでプロビジョニングが失敗すると、vRealize Automation はそのマシンを削除されたマシンとしてレポートしますが、マシンはエンドポイントに残り、Infrastructure Organizer に管理対象外のマシンとして表示されます。

- **Citrix XenDesktop/Provisioning Service マシンをプロビジョニングした場合、マシンがプロビジョニングされていない状態のままになる**

この問題は VMware VDI エージェントおよび Citrix、BMC、Opsware、VBScriptsagent などのすべてのバージョンの VMware EPI エージェントに発生する場合があります。この問題はまた、マスター ワークフロー マシン プロビジョニング サイクル全体にわたってさまざまな時点で発生する場合があります。

すべてのサードパーティのサーバ要求を処理できるように、空白のままにせずに、特定のサーバ名を使用するようにエージェントがインストールされた可能性があります。特定のサーバ名が入力されている場合、このエージェントはこのサーバ名に正確に一致するサーバの要求のみを処理できます。vRealize Automation はカスタム プロパティ `EPI.Server.Name` または `VDI.Server.Name` の値を使用して、一致するエージェントを特定し、要求を処理します。一致するエージェントが見つからない場合、マシンはプロビジョニング中に一致するエージェントが見つかるまで、EPIRegister/プロビジョニング済みマシン状態、またはプロビジョニング解除/無効マシン状態のままとなります。

**回避策:** `EPI.Server.Name`/`VDI.Server.Name` で入力されたサーバ値と正確に一致する新しい EPI/VDI エージェントをインストールするか、サーバ名を空白のままにします。

または、次の手順に従って、現在のエージェントのエージェント構成ファイルを更新して、サーバ値を変更できます。

1. 通常、`C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC\Agents\<agentName>\VRMAgent.exe.config` に保存されているエージェントの構成ファイルをバックアップします。
2. 管理者としてテキスト エディタを開きます。
3. 任意のエージェントのタイプに対する変更を行うには、`SERVER_NAME_VALUE` を使用しているサーバ名で置き換えるか、空白のままにします。  

```
epiIntegrationConfiguration epiType="CitrixProvisioning" server="SERVER_NAME_VALUE"
vdiIntegrationConfiguration vdiType="XenDesktop" server=""X
```
4. 変更内容を保存します。
5. エージェント サービスを再起動します。
  - a. **スタート > 管理ツール > サービス** をクリックします。
  - b. 目的の VMware vRealize Automation エージェント サービスを右クリックして、**[再起動]** をクリックします。
  - c. エージェントが正常に再起動した後、ジョブは想定どおりに続行されます。

- **管理者が数百ものグループのメンバーである場合、[インフラストラクチャ] タブを開こうとすると失敗する**

Active Directory と SSO を使用する場合、多くのグループのメンバーである IaaS 管理者は [インフラストラクチャ] タブを表示できない場合があります。これを試みると、次のいずれかのエラーが発生します。

- 不正なリクエスト - リクエストが長すぎます - HTTP エラー 400. リクエスト ヘッダのサイズが長すぎます。
- サービスにアクセスできません - 指定アドレスで要求されたサービスに接続できません。詳細はシステム管理者にお問い合わせください。参照エラー REP0404。

**回避策:** 次の例のようにトークンの制限を引き上げます。

1. Kerberos トークンの最大サイズを決定して設定します。正しい Kerberos トークンの最大サイズを決定するには、以下のガイドラインに従います。

$\text{Kerberos MaxTokenSize} = 1200 + 40d + 8s$  (バイト)

この式は次の値を使用します。

- $d$  -- ユーザーがメンバーになっているドメインのローカル グループの数、ユーザーがメンバーになっているユーザーのアカウント ドメインの外部にあるユニバーサル グループの数、およびセキュリティ ID (SID) 履歴に表示されるグループの数の合計。
- $s$  -- ユーザーがメンバーになっているセキュリティ グローバル グループの数およびユーザーがメンバーになっているユーザーのアカウント ドメイン内のユニバーサル グループの数の合計。
- 1200 -- チケット オーバーヘッドの推定される値。この値は、DNS ドメイン名の長さやクライアント名などの要素によって変化します。

2. レジストリ エントリの修正が必要かを判断します。上の式を使用して計算するトークン サイズが 12,000 バイト (デフォルト サイズ) 未満の場合、ドメイン クライアントの MaxTokenSize レジストリの値を修正する必要はありません。値が 12,000 バイト以上の場合、MaxTokenSize レジストリの値を調整します (<http://support.microsoft.com/kb/263693> を参照)。Kerberos の MaxTokenSize の値を変更する必要がある場合は、次のレジストリ エントリを修正します。

HKLM\System\CurrentControlSet\Control\Lsa\Kerberos\Parameters

MaxTokenSize、REG\_DWORD、<値> (MaxTokenSize レジストリ エントリの推奨値は 10 進数の 65535 または 16 進数の FFFF です)。

3. 次のガイドラインを使用して、展開するための正しい HTTP の最大リクエスト サイズを決定および設定します。ここで、 $T$  は上で設定した Kerberos の MaxTokenSize です。

$\text{MaxFieldLength} = (4/3 * T \text{ バイト}) + 200$

$\text{MaxRequestBytes} = (4/3 * T \text{ バイト}) + 200$

MaxFieldLength と MaxRequestBytes を計算された値に設定します。次の例では、許可される最大値に設定されています。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\HTTP\Parameters
MaxFieldLength DWORD 65534
MaxRequestBytes DWORD 16777216
```

ユーザーが多くのグループに属する場合の Kerberos 認証の問題に関する詳細については、次のサポートに関する記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/327825>  
<http://support.microsoft.com/kb/263693>  
<http://support.microsoft.com/kb/2020943>

## 廃止された機能とサポート

次に示す廃止された機能は、vRealize Automation の今後のリリースでサポートが終了します。廃止された機能は、VMware で引き続きサポートされており、vRealize Automation の現在のリリースでは引き続きテクニカル サポートおよびエンジニアリングによる修正の対象となります。

### 相互運用性

次に示す廃止されたソフトウェア リリースのいずれかを現在使用している場合は、新しいリリースに移行することをお勧めします。これらのソフトウェア リリースは、vRealize Automation が新しいリリースをサポートするまで引き続きサポートされます。

- ブラウザ
  - Internet Explorer 8 および 9
- データベース
  - External PostgreSQL または vPostgres アプライアンス
  - SQL Server 2008 R2
- ゲスト OS
  - Red Hat Enterprise Linux 5.x、6.0、6.1、6.2、6.3、6.4
  - SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2
  - Windows 8
- VMware プラットフォーム
  - vSphere 4.x
  - vCloud Director 5.1
  - vRealize Business 6.1
  - vRealize Orchestrator 6.0
- サードパーティのプロビジョニング
  - BMC BladeLogic 7.6 および 8.2
  - Cisco UCS Manager 2.0 および 2.1
  - Citrix PVS 6.0
  - Citrix XenDesktop 5.5、7.0、7.1、7.5

- Citrix XenServer 5.6
- HP Software Server Automation 7.8
- Hyper-V 2012
- KVM 3.1
- NetApp FlexClone OnTap 7.3.1.1
- Red Hat OpenStack Grizzly および Havana

## API

vRealize Automation API の今後のリリースでは、次の変更が予定されています。この vRealize Automation API での変更を反映するために、vRealize Orchestrator および vRealize CloudClient 用の vRealize Automation プラグインが更新されます。

- カタログ アイテムおよびリソースのプロビジョニングと管理
  - vRealize Automation カタログ API での HTTP メソッドとエンドポイント URI は変わりませんが、ブループリント モデルでの変更のために、要求と応答のペイロードが変わります。
- ビジネス グループ管理
  - API クライアントは、使用する API を IaaS ビジネス グループ API から vRealize Automation Identity API に切り替える必要があります。
- 予約管理
  - API クライアントは、使用する API を IaaS 予約 API から vRealize Automation 予約 API (vRealize Automation 6.2 で導入) に切り替える必要があります。
- Application Services
  - Application Services API はサポートされなくなります。Application Services API で公開されている機能は、新しい vRealize Automation API で今後サポートされることになります。
- Java SDK
  - 現在の Java SDK に対してビルドされた Java クライアントは今後もエラーが発生することなくコンパイルされますが、マルチマシンのブループリントをプロビジョニングするためのコードは、新しいブループリント モデルに合わせて更新する必要があります。